

書 評

Basmajian JV・他 編著／加倉井周一・他 監訳

リハビリテーション治療選択基準
ーリハビリテーション医学における科学性の追求

千野 直一（慶應義塾大学リハビリテーション医学教室）

本書は Basmajian JV と Banerjee SN 編著「Clinical Decision Making in Rehabilitation—Efficacy and Outcomes」の翻訳書である。日本語で、その表題を「リハビリテーション治療選択基準」と訳し、さらに、「リハビリテーション医学における科学性の追求」と副題がついている。

監訳者が原著にない副題をあえて付したことは、その「監訳者のことば」にもあるようにリハビリテーション医学・医療は、他の臨床分野と同じように科学的な実証のもとに施行されなければならないことを強調したかったからであろう。事実、本書の内容は、副題のほうが的確に示している。

本書の内容は、まず、第1章で、臨床診療で用いられる種々の診断法や治療法に関して、科学的データ（証拠）からランク付けを行う方法が説明されている。

第2章以下は、脳卒中、脊髄損傷、外傷性脳損傷、腰痛—診断法と非手術の治療法、持続痛、慢性気流閉塞、心臓リハビリテーション、下肢切断、筋疾患、関節炎の疾患別に分け、分担執筆者によって100～150以上の文献を考察している。そして、第1章に従い、それぞれのテーマ毎に診断・治療方針を科学的に詳細に証拠立てて検索し、科学的な面での順序付けがなされている。

最後の章では、リハビリテーション医学の専門性

と特殊性、また、この専門分野で残された問題点に関して解決すべき方法論を、Dr. Basmajian がまとめている。ことに、プラセボ効果とその活用や、訓練と治療（training vs treatment）をはっきり定義づけている点などは、まさに、リハビリテーション医学の科学性の大切さを訴え続けてきた Dr. Basmajian の姿を彷彿させるところである。

最初に記載すべきであったが、原著は、カナダのマックマスター大学リハビリテーション医学科に関連するスタッフにより執筆されている。周知のように、この大学は1960年代からリハビリテーション医学のみならず、基礎、臨床の医学分野の卒前・卒後教育、医学研究に斬新な新風を吹き込んだことで有名である。筆者も偶然、Dr. Basmajian と Dr. Banerjee の編著者とは1970年頃よりの知り合いであり、如何に彼らが本書を世に出したかったかが理解できる。

本書はリハビリテーション医学が科学的に裏づけされた専門分野であることを証明するものであり、日本で形而上的にとらえられてきたリハビリテーション医学を原点に引き戻すために必見の書といつてよい。ことに、リハビリテーション医学・医療の研究者には座右の書である。

（A4 頁250 4,500円＋税 1997 協同医書出版社刊）